



カタルで開催された世界社会開発サミットで（昨年11月）



◆おの・ますみ 1995年から国連経済社会局に勤務、在バンコク国連アジア太平洋経済社会委員会、国連事務総長室を経て、2020年1月から経社局若者・高齢者・障害者・家族の社会包摂部門チーフ。

Advice 共通の志持つ人と働く

幼稚園から小学2年生までを米アラソカ州で過ごし、高校時代にも米国に留学、米国の大学を目指した。いったん上智大に入学し、その後、米コーネル大で経済学・国際関係論で学士を、経営学で修士を取得し、ニューヨークで米金融機関に就職した。

国連への関心は大学院時代に芽生え、競争試験に合格。銀行を1年で辞め、1995年に転職した。

*SDGs@スクールは毎月1回(第1水曜日)お届けします。

編集後記

外務省によれば、国連と関連機関で働く邦人職員数は2024年末で979人。各国の人口や国連予算の分担率に応じて算出される「国籍

今回の主なテーマ



SDGs エスディーゼーズと読み、Sustainable Development Goalsという英語の頭文字からとった略称。「持続可能な開発目標」と訳されている。2015年の国連総会で採択され、貧困や飢餓、教育、男女の平等、働きがい、生産消費、生態系の保全など17項目の目標を掲げている。目標の下には、具体策や数値目標などを示した計169のターゲットがある。

国連経済社会局 若者・高齢者・障害者・家族の社会包摂部門チーフ 小野舞純さん

国際会議の黒子役

国連本部には国連総会や安全保障、経済社会といった理事会を支え、多岐にわたる国連の日常業務を遂行する事務局がある。国連の活動内容は、193加盟国の総意に基づいて決まるが、実務的に補佐するのが事務局職員だ。グローバル化が進む世界で、貧困対策や若者の就労問題、女性活躍の推進などに関する国際会議をサポートし、政策モデルの提言を推奨してきた国連経済社会局の小野舞純さん(56)に聞いた。(調査研究本部 大内佐紀)



日本の発信期待
注力する高齢者対策には、気候変動問題との類似点があるという。「高齢化は世界のあらゆる国で進み、速度は加速している。また大丈夫、時間はあやうと思っていたらダメで、高齢化社会が現実となる前に対策を講じる必要

Imagine

「要がある」と話す。日本は高齢化で世界の先を行く。「国民皆保険制度や地方自治体と民間、家族が連携しての介護など、日本の知見が世界に役立つことが多々ある」と積極発信に期待を寄せる。

「短期間の銀行勤務を経て思う国連の魅力は、より良い社会・世界を作ろうという共通の志を持った、多様な国籍・文化的背景のある人たちと一緒に働けること」という。2008年末から20年1月まで10年以上、国連の中核ともいえる事務総長室に所属した。「超がつく多忙だったが、国連の多様な仕事を俯瞰して見られるようになったのが財産です」と笑った。

加盟国に取り入れてもらえぬ政策提言には開き、私人的な深い分析は不可欠だが、私の担当分野はデータを集めるのが難しいのが悩みだ。障害を持つことが行政に把握されていないから、60歳代と80歳代でニーズ

「だれ一人取り残さない」が基本理念
「だれ一人取り残さない」が基本理念。国連本部事務局の出身となる。例えば、あるアフリカの国が、障害者の権利条約を履行するためのアドバイスが欲しいといわれれば、ワークショップを開き、専門家や当事者団体の知見を集め、「こんな選択肢もありませんか」と提案する

「だれ一人取り残さない」という目標達成に向けて、望ましい状況ではない。それでも、「いろんな世論があるべきことを丁寧に一つ一つやるべきことを丁寧にやるだけ。寛容性に頼るだけではなく、差別や格差が当たり前にならないよう、政策や制度を整えることが大事だ」と前を向く。

「だれ一人取り残さない」が基本理念
「だれ一人取り残さない」が基本理念。国連本部事務局の出身となる。例えば、あるアフリカの国が、障害者の権利条約を履行するためのアドバイスが欲しいといわれれば、ワークショップを開き、専門家や当事者団体の知見を集め、「こんな選択肢もありませんか」と提案する

「だれ一人取り残さない」が基本理念
「だれ一人取り残さない」が基本理念。国連本部事務局の出身となる。例えば、あるアフリカの国が、障害者の権利条約を履行するためのアドバイスが欲しいといわれれば、ワークショップを開き、専門家や当事者団体の知見を集め、「こんな選択肢もありませんか」と提案する

「だれ一人取り残さない」が基本理念
「だれ一人取り残さない」が基本理念。国連本部事務局の出身となる。例えば、あるアフリカの国が、障害者の権利条約を履行するためのアドバイスが欲しいといわれれば、ワークショップを開き、専門家や当事者団体の知見を集め、「こんな選択肢もありませんか」と提案する

Crisis

SDGs(持続可能な開発目標)の重要キーワード、「社会包摂」が冒険に入るその基本理念は、「だれ一人取り残さない」にある。

「だれ一人取り残さない」が基本理念
「だれ一人取り残さない」が基本理念。国連本部事務局の出身となる。例えば、あるアフリカの国が、障害者の権利条約を履行するためのアドバイスが欲しいといわれれば、ワークショップを開き、専門家や当事者団体の知見を集め、「こんな選択肢もありませんか」と提案する

Field

国連児童基金(ユニセフ)といった人道支援の現場がある組織とは異なる「国連本部事務局の仕事はイメージしにくい」と思う(佐賀実)。国連総会、安保理などの事務局は、担当分野での議論を円滑に進めるための黒子役を果たす。この中には議論のたたき台となる報告書や提言案の準備が含まれる。

国連「冬の時代」

「だれ一人取り残さない」が基本理念
「だれ一人取り残さない」が基本理念。国連本部事務局の出身となる。例えば、あるアフリカの国が、障害者の権利条約を履行するためのアドバイスが欲しいといわれれば、ワークショップを開き、専門家や当事者団体の知見を集め、「こんな選択肢もありませんか」と提案する

たたき台の準備

「だれ一人取り残さない」が基本理念
「だれ一人取り残さない」が基本理念。国連本部事務局の出身となる。例えば、あるアフリカの国が、障害者の権利条約を履行するためのアドバイスが欲しいといわれれば、ワークショップを開き、専門家や当事者団体の知見を集め、「こんな選択肢もありませんか」と提案する